

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム 淳厚苑
日付	平成17年12月14日
評価機関名	社会福祉法人 岡山県社会福祉協議会
評価調査員	病院での相談援助業務歴31年、家族介護歴13年、介護支援専門員歴3年 病院での認知症高齢者の看護 介護業務歴36年
自主評価結果を見る(事業所の自主評価結果にリンクします)	
評価項目の内容を見る(岡山県の定めた評価項目へリンクします)	
事業所のコメントを見る(評価結果に対する事業所の改善状況についてコメントがあります!)	

外部評価の結果

講評
全体を通して(特に良いと思われる点など)
<ul style="list-style-type: none"> ・ホームのすぐ近くには、役場、幼稚園、小学校、公民館などがあり、地域との交流をはかりながら生活ができています。 ・ホームの階下は医院になっていて、医療機関との連携はとりやすく、緊急時の対応にも安心できる環境です。病院併設のホームですが、ホームの玄関は独立しており、病院内の雰囲気はありませんでした。 ・「真心で家族の味わいを」という理念にそって職員は努力をされています。 ・排泄の自立に向けた取り組みが、積極的に行われ、成果が上がっています。 ・昨年の外部評価での要改善項目(食事を楽しむ支援)に積極的に取り組み、職員と入居者が一緒に楽しそうに食事をされていました。 ・非常階段や屋上を利用して、入居者とともに、年に一回の避難訓練を実施しています。
特に改善の余地があると思われる点
<ul style="list-style-type: none"> ・日々多忙の中、入居者のための記録改善に意欲的・積極的に取り組まれています。個人記録について、担当者による転記をされています。現状では、介護した介護者の気持ちなどが書き込めないため、個人記録の趣旨に基づいて、記録のとり方について検討されてはいかがでしょうか。

運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か。		
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中に溶け込んだ高齢者の生活の実現を目指しています。 ・入居してからでも入居者と家族とのつながりを大切に、職員は「真心で家族の味わいを」提供できるように、入居者の生活リズムを大切にしています。 ・入居者が自分らしく、笑いのある楽しい1日を過ごせるよう取り組んでいます。そのために、職員自身も自分らしさを大切にしながら、取り組めるように心がけています。 			

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間づくり		
3	入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり		
4	建物の外周や空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か。		
<ul style="list-style-type: none"> ・職員は、常にゆっくりした声かけ・話しかた、わかりやすい言葉、入居者に応じた声の大きさに配慮し、職員自身が落ち着いて支援するようにしています。 ・内玄関は夜間以外は開放しており、帰宅願望や外に出て行く入居者には、いつでも一緒について行くようにしています。 ・希望があれば、入居者がターミナル期になっても落ち着いて生活できることを家族に伝えています。 			

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシーの保護のために取り組んでいるものは何か。		
<ul style="list-style-type: none"> ・入居者のこれまでの生活体験や、入居者の性格・趣味・特技などを把握するとともに、入居者自身が語った希望、願い、思いをもとに、介護計画を作成して、経験に応じた持てる力を引き出す支援をしています。(縫い物、絵画、囲碁、帳簿計算、食事の準備など) ・プライバシー保護の観点から、面会簿を廃止して職員が記録用紙に記述するように検討中です。 			

運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
<ul style="list-style-type: none"> ・全ての職員が、グループホームのめざしていることを理解するだけでなく、それぞれ自己研修にも意欲的に取り組まれています。事業者は、各種研修の案内を情報提供したり、資格取得に協力するなど、職員の資質向上を支援されています。 ・ケアサービスの質の向上に向けて、全職員は日々の目標と反省・気付きなどを記録して、ヒヤリハット報告書を作成するための準備をしています。 			